

[普及事項]

成果情報名：リンゴ「秋田19号」におけるNAC水和剤散布による摘果効果

研究機関名 果樹試験場 品種開発部・生産技術部

担当者 照井 真・高橋 功

[要約]

リンゴ「秋田19号」に、NAC水和剤1,200倍を「ふじ」と同日に散布することで「ふじ」と同等の側果落果率が得られ、粗摘果作業を省力化できる。

[キーワード]

リンゴ・秋田19号・薬剤摘果・NAC水和剤

[普及対象範囲]

県内リンゴ栽培地域

[ねらい]

本県育成リンゴ「秋田19号」の着果管理を省力化するには、薬剤摘果の導入が必要である。また、摘果剤の散布時期は栽培面積の多い「ふじ」と同日に行うことができれば、現場に普及し易い。このため、「秋田19号」に対して「ふじ」の散布タイミングで摘果剤処理を行ったときの効果を明らかにする。

[成果の内容及び特徴]

- 1 「秋田19号」の満開期は「ふじ」とほぼ同時期で（表1）、NAC水和剤処理時の中心果横径も同程度である（表2）。
- 2 「秋田19号」に対して、「ふじ」と同日にNAC水和剤1,200倍液を散布すると、「ふじ」とほぼ同等の側果落果率が得られる。また、中心果の落果率は「ふじ」よりやや高いが、過剰落果とはならない（表2）。
- 3 果実や葉に薬害の発生はみられない。

[成果の活用上の留意点]

- 1 結実不良時や、処理時期に中心果と側果の大きさが同等であるときは過剰落果の危険があるため、散布は控える。

[具体的なデータ等]

表 1 「秋田19号」および「ふじ」の満開日とNAC水和剤の処理時期(2020~2022年)

試験年	満開日		処理日	処理日 満開後日数
	秋田19号	ふじ		
2020年	5月 8日	5月9日	5月23日	14
2021年	5月11日	5月9日	5月24日	15
2022年	5月 6日	5月6日	5月19日	13

処理日・満開後日数：「ふじ」を対象

表 2 「秋田19号」に対するNAC水和剤の摘果効果(2020~2022年)

試験年	品種名	試験区	樹(枝) 数	果そう数 (/樹)	中心果 横径 (mm)	着果数				落果率(%)	
						処理時		処理約2週間後		中心果	側果
						中心果	側果	中心果	側果		
2020年	秋田19号	処理区	3	30	8.1	30.0	112.0	20.0	27.0	33.3	75.9
		無処理区	3	30	8.0	30.0	112.3	24.3	53.0	18.9	52.8
	ふじ	処理区	3	20	8.7	20.0	78.7	18.7	26.7	6.7	66.1
		無処理区	3	20	8.5	20.0	78.0	20.0	33.3	0.0	57.4
2021年	秋田19号	処理区	3	30	9.5	30.0	99.3	29.7	64.3	1.1	35.2
		無処理区	3	30	9.2	30.0	88.7	30.0	74.7	0.0	15.8
	ふじ	処理区	3	30	9.2	30.0	107.0	28.3	43.0	5.6	59.8
		無処理区	3	30	9.2	30.0	111.0	30.0	38.3	0.0	65.5
2022年	秋田19号	処理区	3	30	7.4	30.0	110.0	23.0	42.3	23.3	61.5
		無処理区	3	30	7.1	30.0	111.3	29.0	81.7	3.3	26.6
	ふじ	処理区	3	30	7.0	30.0	107.0	25.3	41.7	15.6	61.1

2020年：処理日5月23日（展着剤としてラビデン3S 10,000倍加用）、調査日6月10日（処理18日後）

2021年：処理日5月24日（展着剤としてラビデン3S 10,000倍加用）、調査日6月7日（処理14日後）

2022年：処理日5月19日（展着剤としてラビデン3S 10,000倍加用）、調査日6月7日（処理19日後）

樹(枝)数：2020年は「秋田19号」は1区3樹、「ふじ」は1区3主枝、

2022年および21年は「秋田19号」、「ふじ」ともに1区3樹

[その他]

研究課題名：果樹産地再生の基盤となる新品種の育成と選抜

研究期間：令和2年度～令和4年度

予算区分：県単

掲載誌等：なし